

# 新東名高速道路の開通への期待

## — ニホンつながる新東名 —

西川 武宏\*

新東名高速道路の浜松いなさ JCT から豊田東 JCT 間（以下、（愛知県区間）という）については、昭和 62 年の国幹道法改正において予定路線（東京都から名古屋市）として位置づけられて以降、約 30 年の年月を経過し、今年度いよいよ開通予定である。

本稿では、新東名高速道路（愛知県区間）の概要とともに、この開通に伴って期待するストック効果とその効果をさらに高めるための愛知県の取組について紹介する。

キーワード：新東名高速道路（愛知県区間）、期待するストック効果、愛知県の取組

### 1. はじめに

新東名高速道路は、東京都から名古屋市に至る約 330 km の高速自動車国道である。平成 24 年 4 月 14 日に御殿場 JCT から浜松いなさ JCT 間の約 144.7 km（同時に東名高速への連絡路（浜松いなさ JCT から三ヶ日 JCT 間の）約 17.2 km）（以下、（静岡県区間）という）が開通した。今年度末までには、浜松いなさ JCT から豊田東 JCT 間（愛知県区間）の約 55.2 km の開通が予定されており、この開通により伊勢湾岸自動車道や新名神高速道路と繋がる約 260 km の「日本の新たな大動脈」が形成される。

本年 8 月に閣議決定された「新たな国土形成計画」では、「安全で豊かさを実感でき、経済成長を続ける活力があり、国際社会の中で存在感を発揮する国づくり」を計画目標とし、人・モノ・カネ・情報の活発な動き（対流）が全国各地でダイナミックに湧き起こる「対流促進型国土」の形成を基本構想としている。人・モノの流れの中心となるのが、高速道路ネットワークであり、その中でも新東名高速道路は、日本経済の中心的な役割を担う地域を繋ぐ高速道路として、そのストック効果は、愛知県に留まらず日本全体に大きなインパクトを与えるものとして期待している。

本稿では、新東名高速道路（愛知県区間）（図 - 1）開通によってもたらされる様々なストック効果の内、期待する 3 つのストック効果について紹介する。また、その効果

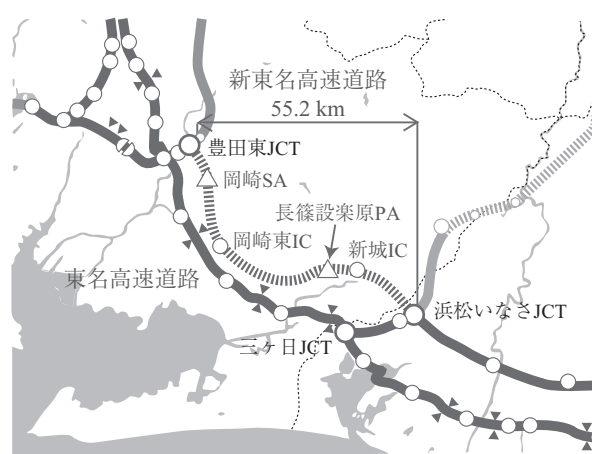


図 - 1 新東名高速道路（愛知県区間）

をさらに高めるための愛知県の取組について紹介する。

### 2. 新東名高速道路（愛知県区間）の概要

路線名 第二東海自動車道横浜名古屋線  
区間 浜松いなさ JCT から豊田東 JCT  
延長 約 55.2 km（愛知県内 54.7 km、  
静岡県内 0.5 km）

愛知県内 市町村別	豊田市	岡崎市	豊川市	新城市
延長	3.8 km	21.2 km	9.7 km	20.0 km
全長	54.7 km			

経緯 S62.9.1 国幹道法改正 予定路線 約 330 km  
H1.2.27 第28回国幹審 基本計画 約 296 km  
H3.12.3 第29回国幹審 整備計画 約 217 km  
H5.11.19 施工命令 約 217 km

### 3. 新東名高速道路のストック効果

#### 3.1 産業に関して

##### (1) ストック効果

新東名高速道路（愛知県区間）開通によるストック効果の 1 点目として、物流効率の円滑化と立地環境の優位性向



\* Takehiro NISHIKAWA

愛知県 建設部  
道路建設課 課長補佐

上に伴う企業進出（民間投資の喚起）を期待している。

愛知県は、昭和52年以来38年間連続して工業製品出荷額全国1位を誇る産業県であり、日本経済をリードする役割を担っている。国際競争が激化するなか、引き続きその競争力を維持・強化し、日本経済を牽引する役割を果たしていくためには、利便性が高くかつ効率的な物流ネットワークの構築が必要である。そうしたなか、県内の東名高速道路三ヶ日JCTから豊田JCT間の1日交通量は、平均約9万台を超える東西交通の要衝となっている。本区間は平成23年10月に音羽蒲郡ICから豊田JCT間を片側3車線（暫定措置）にしているが、年間約800回を超える渋滞が発生している（図-2）。新東名高速道路（愛知県区間）の開通により交通分散が図られ、渋滞回数は大幅に減少すると予想されており、スムーズで安全な交通が確保されると期待している。

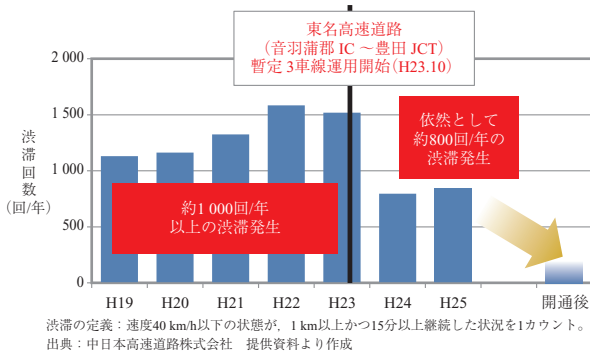


図-2 渋滞回数の推移

また、新東名高速道路の沿線工業団地では、開通を間近に控え、分譲開始後速やかに完売する等の好調な状況にある（図-3）。今後、さらに沿線地域の周辺において複数の新たな工業団地が計画されており、民間投資においてさらなる企業立地の促進が図られることを期待している。

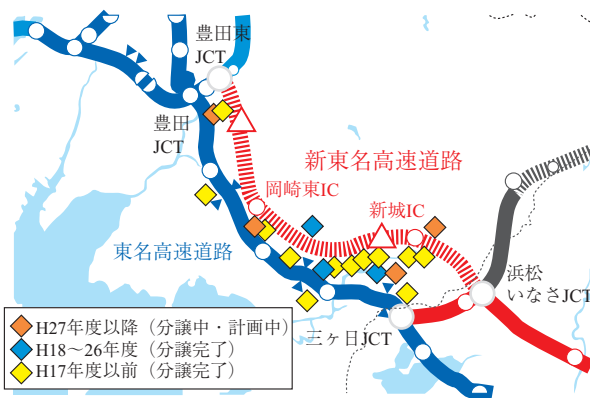


図-3 工業団地の分譲状況

## (2) 愛知県の取組

愛知県では、新東名高速道路沿線の産業活動を活性化させるため、高速道路ネットワークの利便性の向上を図る目的において、ICアクセス道路の整備を進めている。

新東名高速道路（愛知県区間）では、2つのIC（岡崎東ICと新城IC）が、新設予定である。

### ○国道473号（岡崎額田バイパス）

当該道路は、国道1号から新東名高速道路の岡崎東ICへのアクセス道路として、愛知県において新東名高速道路の開通を目指し鋭意整備を進め、本年3月15日に本線部（約3.6km）を開通させた。現在、ICへのアクセス部（約0.7km）について、中日本高速道路（株）と調整を図り工事を進めている（写真-1）。

#### （事業概要）

延長：4.3 km（本線部 3.6 km、アクセス部 0.7 km）

道路規格：幅員 19.75 m（4車線+片歩道）

設計速度  $V = 60$  km/h

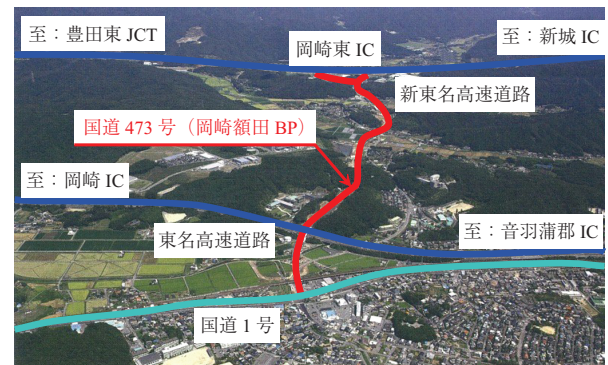


写真-1 国道473号（岡崎額田バイパス）

### ○国道151号（新城バイパス）の4車線化

当該道路は、平成22年3月に暫定2車線で開通している。現在、新東名高速道路の新城ICへのアクセス部の北側の本線部について4車線化工事（約1.0km）を進めるとともに、ICへのアクセス部（約0.5km）について、中日本高速道路（株）と調整を図り工事を進めている（図-4）。

#### （事業概要）

延長：1.5 km（本線部 1.0 km、アクセス部 0.5 km）

道路規格：幅員 25 m（4車線）、設計速度  $V = 60$  km/h

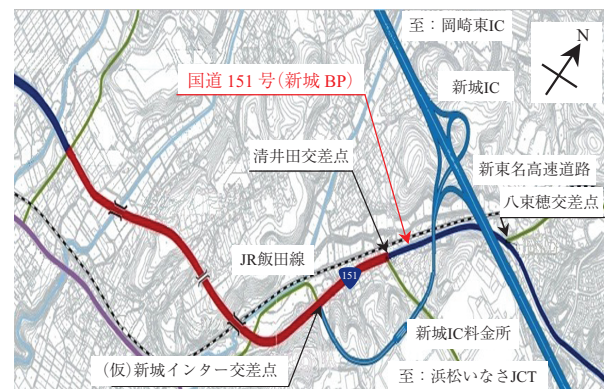


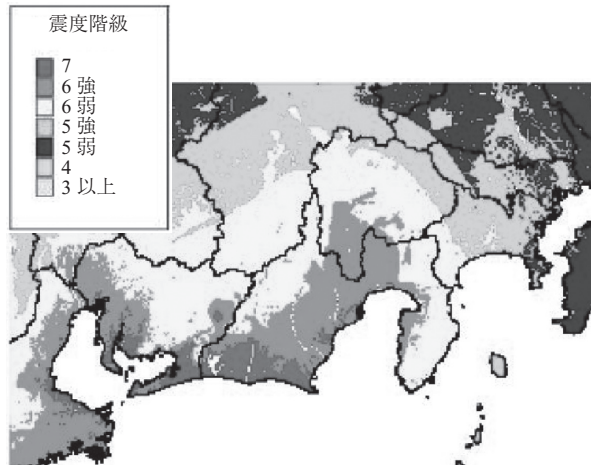
図-4 国道151号（新城バイパス）

## 3.2 防災・減災に対して

### (1) ストック効果

新東名高速道路（愛知県区間）開通によるストック効果の2点目として、大規模災害時における防災・減災への効果を期待している。

新東名高速道路の沿線地域は、この30年以内に発生する確率が約70%程度とされる南海トラフ巨大地震において、大きな被害が予測されている（図-5）。



出典：中央防災会議

図-5 南海トラフ地震の震度分布

新東名高速道路は、東名高速道路より内陸に位置し、南海トラフ巨大地震の被害想定における想定震度7以上の箇所が比較的少ないエリアを通過するため、東名高速道路と比較して被害を受けにくいと想定される。

新東名高速道路の開通により東名高速道路とのダブルネットワークが形成され、リダンダンシー（代替性）の機能が確保される。特に大規模災害時において、発災直後の速やかな救助・救援活動に資するとともに、被災地の復旧・復興のスピードアップに貢献することを期待している（表-1）。

表-1 大規模災害時における新東名高速道路に期待される効果

- ① 速やかな救助、救援活動の支援！
- ② 本格的な復旧までの立ち上げを速める！
- ③ 復興スピードのアップ！

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社<sup>1)</sup>では、南海トラフ巨大地震における経済への影響について「新東名高速道路が有る場合」と「新東名高速道路が無い場合」における比較検討がなされており、「新東名高速道路が無い場合」に比べて経済損失額が約7300億円（被災後12ヶ月）も軽減されると試算している（図-6）。

新東名・東名高速道路の沿線地域は、日本の経済活動の中心的な役割を担っており、大規模災害時においても、被害を最小限に留める必要がある。新東名高速道路と東名高速道路のダブルネットワーク化は、その被害を最小限に留める上で大変重要な役割を果たすものと期待している。

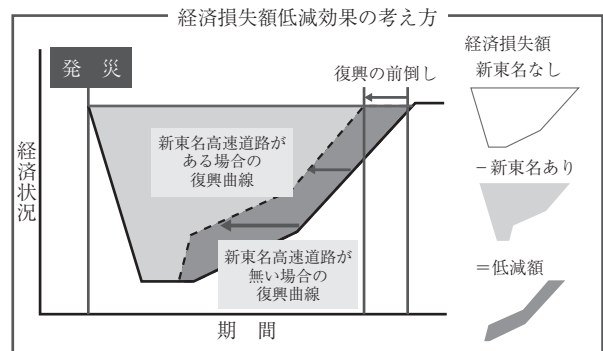


図-6 経済損失額軽減の考え方

(2) 愛知県の取組

愛知県では、2014年12月に「第3次あいち地震対策アクションプラン（以下、アクションプランという）」を策定し、地震防災対策に取り組んでいる。アクションプランでは、「地震から県民の生活・財産を守る強靱な県土づくり」を理念とし、施策に5つの柱「①命を守る、②生活を守る、③社会機能を守る、④迅速な復旧・復興を目指す、⑤防災力を高める」を立て、そのなかで243のアクション項目を実施している。今回は、その内、道路分野にかかる内容（2項目）について紹介する（図-7）。

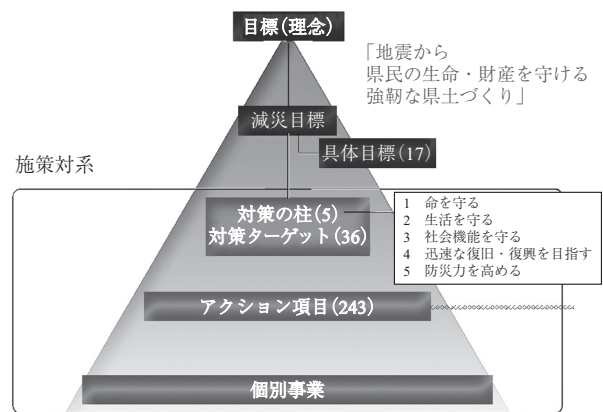


図-7 第3次あいち地震対策アクションプランの概念図

まず1点目は、災害時に県民の命を守る上で不可欠な救助、救急、医療および防災活動を着実に実施するために必要となる緊急輸送道路等の整備推進である。海拔0メートル地帯から中山間地域までの緊急輸送道路網の整備充実に努めることとしており、アクションプランでは107.9kmの整備を予定している。

また2点目は、その緊急輸送道路における重要な橋梁に対して橋梁本体の耐震補強を推進している。併せて、海拔0メートル地帯等の橋梁取付部の沈下の恐れがある地域の橋梁には、耐震補強に加えて沈下に伴う段差対策の推進も行うこととしており、本アクションプランにおいて40橋の耐震対策を予定している。

愛知県としては、こうした取組を通じて、万一の大規模災害時においても安全で安心な県土づくりに努める。

### 3.3 観光に対して

#### (1) ストック効果

新東名高速道路（愛知県区間）開通によるストック効果の3点目として、新たな観光需要の創出を期待している。

愛知県では、2015年を「あいち観光元年」と位置づけ、本県への誘客促進に取り組んでいる。織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の三英傑を始め、多くの戦国武将を輩出したという歴史背景を活かした「武将観光」や、燃料電池自動車（MIRAI）や国産ジェット旅客機（MRJ）に代表される最新技術まで本県に息づくモノづくりの文化を活かした「産業観光」など、豊富な観光資源を生かして国内外の観光客のニーズに対応していきたいと考えている。

新東名高速道路（愛知県区間）の開通に伴う効果としては、観光行動圏拡大とともに、これまで東名高速道路（三ヶ日JCTから豊田JCT）の渋滞により出控えていた観光行動の変化に期待している。

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社<sup>2)</sup>が行った愛知県、静岡県および周辺地域へのアンケート調査では、東名の三ヶ日JCTから豊田JCT間で発生している交通混雑によって観光・レジャー行動を控えた経験のある人は、43%にもものぼっている（図-8）。今回の開通に伴う試算では、愛知県・静岡県合わせて年間約1100万人の観光客数の増加が見込まれ、その増加した観光客による観光消費額は年間約1000億円にもものぼると予想されており、県内の観光需要の活性化を期待している（図-9）。

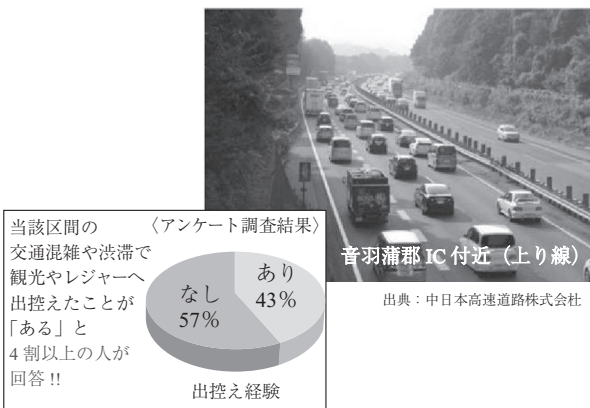


図-8 東名の現状とアンケート調査の結果

#### (2) 愛知県の取組

愛知県では、こうした新たな観光需要の創出の効果をさらに高めるため、新東名高速道路（愛知県区間）の開通を記念し、中日本高速道路(株)と共同で高速道路料金の割引プランの実施を予定している（未発表（H27.8.31現在）のため「割引プランの基本的な考え方」のみを紹介する）。

「割引プランの基本的な考え方」としては、開通に伴う観光行動圏域の拡大とともに、並行する東名高速道路の渋滞状況改善に伴う観光行動の活性化を期待している。開通する新東名高速道路（愛知県区間）を中心とした地域の観光地を全国の方々に周遊観光して頂くとともに、本区間および並行する東名高速道路を利用（通過）する観光交通の

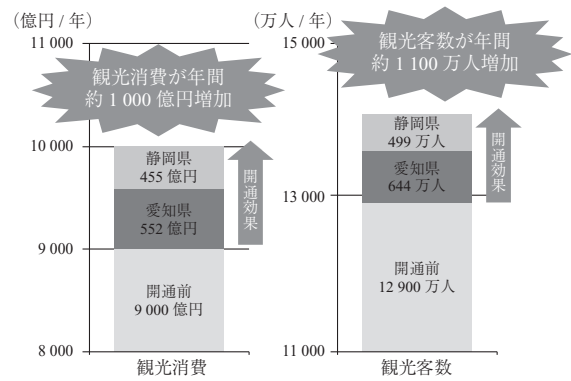


図-9 観光消費及び観光客数の変化

利用促進を図る割引プランを企画する予定としている（図-10）。



図-10 割引プランの概要

愛知県には、伝統文化・なごやめしや自然等に代表される数多くの観光資源があり、観光客の心を掴んではなさない多彩な魅力をもっている。愛知県としては、今回の割引プランを利用し、期間中にできるだけ多くの方々に愛知県の魅力に触れて頂けることを期待している。

## 4. おわりに

新東名高速道路（愛知県区間）の開通に伴うストック効果は、本紙で紹介した内容に留まらず、また、その規模は愛知県のみならず日本全体に影響をもたらすものと期待している。愛知県としては、今回の新東名高速道路（愛知県区間）開通によるストック効果を県内に最大限取込んでいくため、幹線道路網整備等の各種政策を引き続き進めて行く予定としている。

本誌ご購入の皆様方には、引き続き本県の道路行政に、ご理解とご協力を賜りたい。

#### 参考文献

- 1) 水谷洋輔：三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 政策研究レポート, 2015年3月
- 2) 宮下光宏：三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 季刊 政策・経営研究, vol.1, 33頁, 2015年

【2015年9月4日受付】